

東書 一年上

どうやってみをまもるのかな

第一次指導 (二時間扱い)

○ 目標

- ・ 説明的な文章の基礎として編集委員会が藪内正幸氏の絵本を参考にして書き下ろしたものである。動物の身の守り方が挿絵と共に楽しめる。動物への関心と共に科学読み物も読もうという態度を育てたい。

〈区画〉 七区画 (教科書の区画)

一よむ (音読 七区画 七名)

二とく (読後感の話し合い)

○ 題目

- ① ここに出てくる動物は、三匹とも日本には住んでいません。どんな動物が出てきましたか。

(答え 板書 位置工夫)

- ② 三匹のどんなことが書いてありますか。

(敵から身を守る。みをまもってと板書)

○ ひびき

- ③ ヤマアラシの絵を見てください。これは、ネズミの仲間だそうです。大きさは、兎ぐらいあるようです。背中に伸びているのは何ですか。

- ④ このとげは、毛が太く硬くなったのだそうです。このとげで身を守ります。

- ⑤ 次は、アルマジロですが、ヨロイネズミともいうようです。鎧は、戦の時に身に付けるものです。この鎧は、何で出来ていますか。

- ⑥ 硬い甲羅で出来ています。その甲羅がどうなっていますか。

- ⑦ サッカーボールのように細かく分かれた形のものがあります。これで身を守ります。

- ⑧ 最後は、スカンクの絵を見てください。アメリカ大陸にいる日本のイタチの仲間です。イタチの最後つ尻という言葉がありますが、このスカンクの匂いは、強烈だそうです。歩いて五分離れても匂うそうです。その匂いのもとは何ですか。

- ⑨ お尻から出る汁です。人間のおならは、ガスですね。このように動物は、自分の身を守るものを身につけているという面白い話です。

○ 手引き

- ・ 3、5、7からそれぞれの動物がどのような身を守っているかを探して、短い言葉で書き出します。

三よむ (指示に沿って黙読)

四かく (視写)

- ・ 3をみんなで探してみましよう。
- ・ 「とげをたてて、みをまもります」とあるので、「たてて」と書きましよう。
- ・ 5もみんなで探してみましよう。

「からだをまるめて、みをまもります」とあるので、「まるめて」と書きましよう。

- ・ 7は自分で探して書き出ましよう。

- | | | |
|---|--------|-----|
| 1 | みをまもって | |
| 2 | やまあらし | とげ |
| 3 | たてて | |
| 4 | あるまじろ | こうら |
| 5 | まるめて | |
| 6 | すかんく | しる |
| 7 | とぼして | |

五よむ (指黙読 指音読 各一回)

六とく (板書をもとにした話し合い)

○ 事実・区分

- ① 三匹の動物には、身を守るものがあります。固いもので身を守るのは何ですか。

- ② ヤマアラシとアルマジロですね。ヤマアラシが身を守るのに使うのは、何ですか。

- ③ トゲです。太い針のようなトゲをどう使うのですか。

- ④ 背中に何本も立てて身を守ります。

- ⑤ アルマジロが使うのは何ですか。

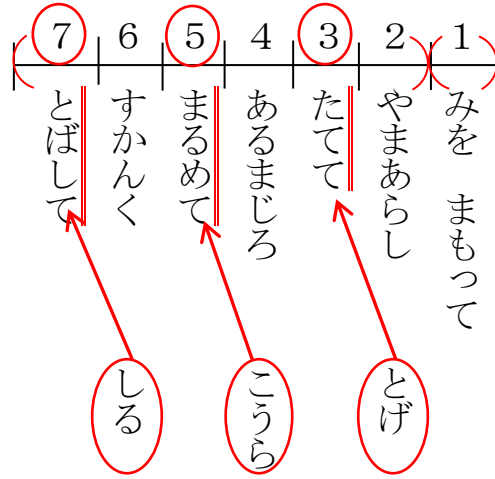
- ⑥ 甲羅です。固い甲羅をどう使いますか。

- ⑦ 亀の甲羅のようではなく丸められるようになっている甲羅で身を守ります。

- ⑧ スカンクは、硬いもので身を守るのではなく、何で守りますか。

- ⑨ 汁を使います。その汁をどのように使いますか。

- ⑩ 強い臭いの汁を敵に飛ばして逃げます。



どうやってみをまもるのかな

◎山

- ⑪ 三匹の動物が「どうやってみをまもるのかな」を詳しく読みます。「3・5・7」を家でも読んでみましよう。(題名と3・5・7に○ 板書)
- 余韻 (動物の話は、面白いなあ。)

七よむ (全員で板書を指音読)

〈板書事項〉

第二次指導第一時

第二次指導は二とく、六とくのみ

二とく

○おさらい

- ・ 汁を飛ばして ↓ 硬い甲羅で ↓ トゲで

◎承接

- ・ トゲを立てるのは何時

○手引き

- ・ ヤマアラシの身の守り方を書いて勉強します。(全文を書くか、後半を書くか学級の実態で)

やまらしは、とげをたてて、みをまもります。てきがきたら、うしろむきになって、とげをたてます。(四六字)

六とく

○語義・区分

- ・ うしろむきになって
- ・ 二区分(守り方、いつ立てるか)と立て方

◎心

- ・ 身を守る武器と方法

○余韻

- ・ 仲間と遊ぶときにも気をつけないとなあ。

第二次指導第二時

二とく

○おさらい

- ・ ヤマアラシの身の守り方

◎承接

- ・ あるまじろ ↓ 甲羅の作り ↓ ダンゴ虫

○手引き

- ・ アルマジロの身の守り方を視写

あるまじろは、からだをまるめて、みをまもります。

てきがきたら、こうらだけをみせて、じつとしています。(五十字)

六とく

○語義・区分

- ・ だけをみせて じつとして
- ・ 二区分(方法と時期と様子)

◎心

- ・ 体の丸め方とその様子

○余韻

- ・ 舐められたり噛まれたりしても動かないようにしているのは大変だなあ。

第二次指導第三時

二とく

○おさらい

- ・ 体を丸めている時間 ↓ 丸め方

◎承接

- ・ スカンクのお尻

○手引き

- ・ スカンクの身の守り方、後の二文を視写

てきがきたら、さかだちをして、おどかします。てきがにげないと、さかだちをやめて、くさいしるをとばします。(五二字)

六とく

○語義・区分

- ・ おどかす にげないと
- ・ 二区分(最初にすること、最後の手段)

◎心

- ・ 身を守る方法

○余韻

- ・ 仲間で喧嘩した時にもつかうのかな。

第三次指導の案は省略